

News Letter

29th.Mar. 2024

VOL.7









Offshore Tech Japan 2024 出展

2024年1月31日から2月2日まで、東京ビッグサイトで開催されたOffshore Tech Japan 海洋産業技術展 2024(以下、OTJ 2024)において、第3期 SIP「海洋安全保障プラットフォームの構築」(以下、SIP3 海洋)の今後の5年間計画の説明と併せ、AUV(しんりゅう 6000:旧「NGR6000」)とCOEDO Petite実機の展示を行いました。

SIP3海洋によるブース出展は、2023年9月に行われた「長崎ドローンサミット」に続き、関東周辺では初めてとなるもので、同時に、横須賀でのJAMSTEC一般公開(同年10月)を除けば、「しんりゅう 6000」実機の初めてのお披露目の場となりました。展示3日間の期間、OTJ 2024会場入口近くに展示された「しんりゅう6000」は、あたかも今回のOTJ 2024のランドマークのような存在で、延べ12,000名を越す来場者を虜にしていました。企業関係者ばかりでな

く多数の大学生に囲まれてブースの前は人だかりで、視線の先にある「しんりゅう 6000」に足を止め、さらに「しんりゅう 6000」やCOEDO Petiteに触れながら担当者からの説明を熱心に聞いていたことが印象的でもありました。



第3期SIP「海洋安全保障プラットフォームの構築」ブースの様子





期間最終日の2月2日には、OTJ 2024 にお越し頂いた自由民主党宇宙・海洋開発特別委員会海洋総合戦略小委員会事務局長の黄川田仁志衆議院議員にも「しんりゅう6000」をご覧頂き、その後開催された、AUV「NGR 6000」の新名称披露セレモニーにおいて、新名称となる「しんりゅう6000」の揮毫をいただき、併せて参加者全員で今後の更なる活躍を祈念しました。

2月1日にはOTJ 2024によるシンポジウムが開催され、内閣府総合海洋政策推進事務局川口悦生参事官による「我が国の海洋政策 – AUV の社会実装に向けた戦略を中心として—」と題する講演に引き続き、SIP海洋のテーマ3藤原敏文テーマリーダーが「SIPにおける海洋ロボット開発 – 成果と将来展望 – 」と題し、AUV協調群制御技術としてAUVと江戸っ子1号などとの音響通信や小型安価AUV開発、深海ターミナル技術としてのAUVドッキングシステムの技術開発、さらに、社会実装課題として、苫小牧におけるCCS大規模実証試験海域で進められる江戸っ子1号と



AUVを使った環境影響モニタリング調査試験などの SIP3 海洋による今後5年間の研究開発目標とその工程などについての講演を致しました。当日のシンポジウム会場は事前予約制でしたが、会場では多くの立ち見が出る程の盛況ぶりで、SIP3海洋が進める海洋ロボティクス開発への期待の高さを示す良い機会となりました。





(上)川口参事官、(下)テーマ3藤原テーマリーダーの講演



SiP 戦略的イノベーション創造プログラム Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program 海洋安全保障プラットフォームの構築 News Letter 制作・発行:SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」



